

「100年に一度の危機」と言われるコロナ禍での議長就任となった。「答弁調整」「議会内喫煙所設置」等の課題がある中、一般のコロナ対策に心血を注ぐ。さらに、いまだ賛否が分かれる東京オリパラは、感染対策を徹底した上での開催を期待する。

(取材・6月24日、道議会議長室)

ワクチン接種加速が最優先

「まずは議会運営の基本的なスタンスを。『道民にわかりやすく、開かれた議会を目指す』。このことに尽きます。」

私はこれまで道議会議員として5期、市議会議員としても5期務めさせていただきました。元々活発な方ですから、すぐに、どこへでも「駆けつけ、道民の方々と接してきまし

たが、議会運営の舵を取る以上、これまで通りの活動が難しくなることはやむを得ない。

ですが、その分道民や各党派に向ける「聞く耳」をこれまで以上に大切にしつつ、一層の緊張感と責任感を持って邁進したい。

「答弁調整」についてのお考えを伺いたいのですが。

そうですね。6月15

『道民に開かれ100年』運営で「100年に一度の危機」を乗り越える

北海道議会 議長

小畑保則

第33代道議会議長

小畑保則氏

(おばた やすのり) 1949年生まれ、72歳。釧路市出身。85年釧路市議会議員初当選。5期務めた後、2003年道議会議員選挙で初当選。現在5期目。建設委員会委員長、産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員長を歴任。今年6月に議長就任。全国都道府県議会議長会副会長も務める。



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)